

全斗煥の再来を阻止！

たかかう朝鮮人民と連帯し 日帝の朝鮮侵略を内乱へ

血塗られた虐殺者、韓国大統領
全斗煥(チョン・ドフマン)の九
日未日、天皇との会談が決定的
なつた。日帝は一気に朝鮮侵略を

全斗煥は日朝人民の敵だ！

全斗煥は韓国人民のたかかいの
血みどろの強圧の独裁者にしてあ
つた。虐殺者だ。八〇年五月、民
主化闘争の空前の高揚の頂点で光
州(クワンジュ)三〇万市民は武
闘をもつて蜂起、十日間にわた
り全斗煥を制圧しコミューンとした。

この時全斗煥は二度目の軍事クー
ンターで国家の全権を掌握、空軍
部隊など軍隊を光州に突入させ大
虐殺で光州蜂起を民主化の声を圧
殺した。

八〇年五月、軍事独裁者日帝南正統は光州三〇万
市民の蜂起を鎮圧した。たかかう日帝の再来を阻止
す。全斗煥を制圧し、民主化の声を押しつぶさず



進めようとしている。たかかう朝
鮮人民との連帯がけり阻止に起
こう。今秋三里塚二期決戦の内乱
的爆発と結合し総決起しよう。

以来四年、全斗煥は日帝帝国主
義の支持、庇護の下人民への大強
圧の軍事独裁を維持してきた。ま
之に全朝鮮人民の不侮戦いの敵
帝國主義の手先なのだ。

九月未日は何をもちたか
帝國主義世界体制危機下の韓国
新植民地主義体制危機、学生、労
働者の不屈のたかかいの前に全斗

煥政権は崩壊の危機にある。昨年
のランケーン事件は第二次朝鮮戦
争の前夜が到来していることを示
した。

この日帝、中曾根は、全斗煥
招待、会談をもつて此にテコ入
れし一挙に朝鮮侵略を進めようとし
ているのだ。昨年一月の中曾根訪
韓、四の他「ル」援助」決定に統
一、日帝が米防にも対抗的に韓国
の「宗主国」となり、再び朝鮮を
支配しようとしているのだ。それ
は独自の軍事大國化、改憲、アジ
ア侵略への中曾根の軍夫な決断だ。

全斗煥もまた、延命のためにこの
道を歩むとしている。
天皇―全会談はその最大の儀式
だ。侵略戦争の張本人、虐殺者天

日韓連帯の真の道とは何か

たかかう朝鮮、アジア人民と連
帯し、日帝打倒へ起つ上がらう。
日帝は、一世紀の同朝鮮、アジ
ア人民の血を吸、之肥之太。ま
た血塗られた帝國主義だ。朝鮮の



光州蜂起ひまをたかかう韓国の学生たち(5月4日、高麗大學)

皇族もまた朝鮮人民の前に立ち現
れた。侵略の歴史を屈曲けい全
斗煥をひさまつかせ、残虐な植民
地支配を復活させようというのだ。
絶対に許してはいけない。この
道を進めばわれわれ自身も侵略者
に之似てしまう。光州蜂起ひま
つて不屈にたかかう韓国学生、労
働者に連帯し、九月未日阻止へ決
死の決起を望みなければいけな
い。

植民地化、三
六年にわたる
支配は、朝鮮
人民から土地
を奪い、生活



の糧を奪い、日本語使用、創氏改名、神社参拜、天皇崇拜等を強要し、解放回率に殺す戦争動員、強制連行を遂行して、ついに、太平洋戦争に至る十五年の中国、アジア侵略戦争を遂げ、熾々として、奪い尽くす三光作戦、石井細菌部隊の人体実験等、十数万マリアン人を殺りくした。

そして日本人は、戦前この凶悪なる侵略戦争に抗し得ず、自ら虐殺者となったのだ。

侵略の歴史をくり返すのか！

この大殺りくを行なったのは他ならぬわれわれの父母、祖父母たちだ。帝國主義になして反動回率を賣けながら、結果、排外主義の波にのまれ抑圧民族としての腐敗を極め、侵略の先鋒に転落していった。

一〇の歴史を再びくり返すのか——日帝、中韓の復讐戦争政策、全斗漢元日本日露戦の前にもついでがわれわれである。日本人は侵略の犠牲者となった歴史に深刻な反省



中国人民を銃剣で刺殺する日本軍。これがわれわれの父母の苦だ！



百人斬り超記録
第106105野田
兩少尉さらに延長部
アジア人民の無差別虐殺が「武闘」と之した。(当時の商業新聞より)

自己批判をなしたのだらうか？ 否だ。人

理に今朝鮮、アジアの人民は帝國主義の支配に抗し起ち上がった。韓国の民主主義は全斗漢の過酷な弾圧にも屈せず「軍事情報権打倒、日米帝打倒」を掲げ、支離り命をかけたが、こゝに、それはわれわれはどこのものか？ 共に帝國主義打倒だ起つのか、または帝國主義の手先となり彼らを虐殺しわれわれも大死にするのか、それ以外の道はない。

血債の思想を武闘しよう

血の債権は血で返さなければならぬ。アジア人民を虐殺した抑圧民族としての歴史の目を持つ日本人は、階級闘争の批判の立場に立ち、自ら血を流して帝國主義打倒に起ちあがらなければならない。この立場に立たずには侵略戦争に抗するのことが出来ず、

朝鮮、アジア人民との連帯などありえない。それ以外に恥ぢた大死にを避けることはできない。必要なのは、実際に帝國主義を打倒するたがいを賣くことだ。そして、これこそ三里塚二期決戦だ。

三里塚は戦争だ！

二期塚は戦争だ。帝國主義の戦争政策に対する農民の不屈の抵抗を基礎とした帝國主義打倒の人民の戦争、正義の戦争だ。現実の日本階級闘争において、帝國主義打倒の武装回率とこれと軸とした人民の陣営は二期塚を構築されてきた。

朝鮮、アジア人民が民族解放、革命戦争の血路を拓いている時、われわれもまた日帝下から内乱に起たねばならない。その

全人民の唯一の戦場が三里塚なのだ。二期決戦勝利に絶力を投ずることこそ、現時に日帝打倒の道を拓くこと、これだけ唯一の朝鮮、アジア人民の連帯の道だ。その下で全管轄、政治犯救済、在日朝鮮、アジア人民に対する差別、抑圧のたたかい等の諸闘争を推進することだ。

一〇の点、反動未ハルリ「回率」を備え、ルースの「日韓通商」の犯罪性は明らかだ。彼等は朝鮮人民抑圧の張本人日帝と対決する気なまなくない。でも、日韓通商自身、いつまじめたぞとくはないのだ。た三里塚破壊のため、これの反動的使命のため「日韓」をタシドして来た。

それ以外に恥ぢた大死にを避けることはできない。必要なのは、実際に帝國主義を打倒するたがいを賣くことだ。そして、これこそ三里塚二期決戦だ。

帝國主義全国の腐敗した體が朝鮮人民の大死のたがいを喰ひ物にする——「いんま」と林どうして許せるか、

三里塚は「三里塚を日本の光州に」と宣言してたが「破」れている。今夏現地決戦から十、一の大回率入給決起しよう。

全斗漢未日を決死阻止せよ！

今秋三里塚決戦の海軍の海中全斗漢阻止へ起ち上がろう。警備隊長官三井は「来日はいさかしの失敗もないよう」「それまでは死もやめられぬ」と叫び立てて、「ここでもまたわれわれのものは國家暴行の全面激突だ。三里塚の決戦勝利することだ！」と叫ぶ。

全この反動者へ、この夏をたたかいて、之秋入断國通商しよう、七、一戊辰甲木粉砕三里塚現地闘争一七、二一、二三全戦連大会へ

三里塚反動回率編者
大地をこつては
響きこめあり
社会主義社刊 一五〇〇五